

(様式7)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800265		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ 高津		
所在地	島根県益田市高津四丁目1番16号 (電話) 0856-23-7777		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地 松江市民活動センター		
訪問調査日	平成20年8月1日	評価確定日	平成20年9月27日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 6月 30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9人, 非常勤 9人, 常勤換算	11.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000・45000・51000円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	210 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	11名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 89.1歳	最低	80歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院 松ヶ丘病院 中島歯科 松本医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して8年余り、利用者の尊厳を大切にしたい支援に取り組んでいるホームである。利用者本位の対応を追求し、できる事を見守り、しようとする気持ちを引き出すケアを心がけている。そのため職員の育成に力を入れ、外部研修・内部研修、勉強会、新人研修など計画的に実施している。パート職員も参加し認知症ケアの理解が深まっている。民家を改造したホームからみえる風景は、海や空や庭がありすがすがしい雰囲気である。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 課題は「ケアプランの見直し」「積極的な外出支援」「理念の検討」「入浴の工夫」などがあり、改善のための検討をした。季節や利用者の要望により入浴支援を改善したり、毎月の自己評価の意見をケアプランに上げるようにした。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で話し合っ進めた。日常的に、毎月職員一人ひとりが、サービス改善のための自己評価・提言を話し合っているため、今後取組んでいくこと・目指していることは、明らかになっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) それぞれテーマを決めて討議し提案や意見が出されている。「徘徊ネットワーク」のテーマでの検討時、地域の方が「背丈より短くなるよう草刈を配慮している」と述べられるなど、地域の方のホームに対する理解が深まっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 法人で家族アンケートを実施し意見や苦情を出して頂く機会としている。また年1回家族会もある。苦情はあまり出ない。面会時に不安な気持ちを話されることが多く、何でも相談をうけるよう対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩中の挨拶や買い物中の声かけなど徐々に多くなっている、また花などの頂き物もある。認知症のことを理解したいとの要望にこたえ、認知症ケアの資料をつくり、参考にいただいた。職員も地域の草取りに参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念を掲げ、今迄の生活に近い環境を作り出し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援している。理念は検討され地域密着も含み継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、理念に沿った介護ができたかを、自己評価し話し合っている。利用者のやすらぎや喜びに思いを寄せて理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入り、総会・回覧板回し・草取りの活動に参加している。盆踊りやバーベキュー・凧作りには利用者と共に参加し、子供たちと触れ合った。	○	さらにホームの行事を地域の方々と一緒に取り組めるような交流を進めて頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で話し合った。毎月サービス改善へ向けての自己評価・提言を話し合っており、日常的に向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族アンケート・徘徊ネットワーク・防災等、年間テーマがある。地域からの自主的な参加者が増え、意見によりネットワークの連絡網が充実し、認知症の資料も作成した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	統括部長がホームの実情を報告したり、助言を受けている。ホーム長も契約更新などの提出時に意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真入りの「ひなたぼっこ便り」に、利用者本人の便りと、担当職員の日々のお知らせを送っている。利用者がお便りを書けるように支援をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で年1回家族アンケートを行い、サービス改善につなげている。また年1回家族会を開き、職員と共に食事会を行なっている。また意見は苦情と受け止め対応している。	○	さらに個々の家族とのきめ細かいやり取りの中で、意見が出せる機会や関係を作っていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム間・ユニット間の、異動はしないようにつとめている。新人職員にはホーム長が一ヶ月つくようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた研修を考慮し、パート職員も参加している。内部研修、マニュアルの勉強会、新人研修認知症ケアシリーズ、虐待防止自己チェックなど計画的に実施している。研修は月2日までは勤務で行く体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームのホーム長会議が、職員の交流会を企画し、2名の職員が参加した。自分の職場のよさを再確認できた。	○	今後も職員交流を発展させ、相互訪問活動など定着させて頂きたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	統括部長が相談や受付を担当し、事前訪問時はホーム長も同行し家族や本人と充分に話している。体験入居をして馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の切り方や盛り付け、洗濯物の丁寧なたたみ方などから、粗末にしない気持ちを教わっている。利用者の態度がいつもと違う時、馴染みの関係で、本人の気持ちや原因があることが分かり対応できる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんへの尊厳を第一とし、日々の言動や表情の中で思いや意向の把握に努めている。向き合って会話をすることで本音を話されることが多い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心に、職員が意見を出し合って介護計画を作成している。家族を交えて介護計画を作成している事例もある。	○	家族を交えて介護計画を話し合う事例が増えることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じての見直しをされているが、毎月アセスメント表や5項目（食事・排泄・入浴・移乗状況・精神活動性）の評価内容に沿って検討し、介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望や状況に応じて、かかりつけ医の受診支援をしている。家族の勤務先へ訪問したり、誕生日には家族と食事会など、要望に応じている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院を継続している。受診時や緊急時には家族に連絡をして対応している。協力医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的な対応、看取り等に関する指針があり協力体制は整っている。終末期のあり方については、本人や家族の意向に沿い、安心と納得がえられる支援をしていく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者さんへの尊厳を大切にした言葉かけを、職員会議などで話し合い学習している。振り返りのなかで、反省することがある。	○	さらに利用者の誇りやプライバシーを大切にした対応を継続・追求して頂きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重して、押し付けず柔軟に対応している。利用者が何かしている時は全面的に任せて見守っていたり、本人の希望に沿う日々を過ごせるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者が食べたいと言われた物を作るようにしている。調理・盛り付け・配膳は一緒に行い、職員もテーブルを囲み、さりげなく介助をし、穏やかな食事時間である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二人で介助の必要な方などもあり、希望にあわせた入浴時間となっていないが、楽しめるよう工夫している。	○	入浴回数や体制、ケアの仕方など工夫しているが、検討を継続して頂きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理 洗濯たたみ・掃除は職員と一緒にする。読書や、他の方も誘ってドライブに出かけたりと楽しむ方もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先に休んでひなたぼっこをする。門の日陰まで小散歩したり、買い物や若いころ勤めていた喫茶店に出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ひとりで外出されそうな時は声をかけ対応している。徘徊ネットワークの整備もあり、玄関勝手口の鍵は掛けていない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は、1回は消防署の協力で実施し、1回は事業所独自で行なっている。地域の方々の協力を呼びかけている。備蓄は食材の買い置きや、法人間の助け合いにて対応できているとしている。	○	地域の方の協力のある防災訓練や、水や火を使わないで食べられるものの備蓄等、検討をして頂きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの摂取量は確認している。夜間の発汗の多い方には水分摂取量や対応を申し送り配慮している。献立に対する栄養士のアドバイスを年1回受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に椅子が沢山あり中庭の緑や空や風に触れる居場所がある。窓から見える海など季節感にあふれる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掛け軸の飾られた隠居部屋風や好きなものにかこまれた生活が見える居室である。家族の写真 仏壇神棚などが置かれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。